

別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあっては名称) 黒崎播磨株式会社		住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒 806-8586 福岡県北九州市八幡西区東浜町 1 番 1 号	
本票作成	部署名：安全環境防災部				
主たる業種	分類コード	21	業種名：窯業・土石製品製造業		
事業の概要	鉄鋼向け耐火物(定形・不定形)の製造、電子部品向けセラミックスの製造販売				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	備前工場		岡山県備前浦伊部 1 1 7 5	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO ₂ 換算3,000t以上 (●工場等の数 1 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

温室効果ガス排出量	基準年度(平成 26 年度)	(平成 30)年度排出量	目標年度(令和 1 年度)
	12,618 t CO ₂	12,592 t CO ₂	11,987 t CO ₂
主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(平成 30)年度排出量
	①	備前工場	12,592 t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂

削減目標の達成状況	計画期間：平成 27 年度 ～ 令和 1 年度 (5 箇年度)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 総排出量基準	(30)年度削減実績	目標削減率	目標達成
	<input type="checkbox"/> 原単位基準	0.2 %	5.0 %	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容		
	原単位当たり排出量		
	基準年度	(30)年度	目標年度
	CO ₂ /()	CO ₂ /()	CO ₂ /()

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(平成 30 年度)	達成率等

【削減状況の自己評価】

総排出量基準である平成26年度に対し、平成29年度に-5.4%と目標の-5.0%を達成したものの、平成30年度は-0.2%と総排出量が増加した。その大きな原因としては耐火物生産量の増加(H29年度比5.3%の増加)が上げられる。また昨年夏場の異常気象で冷房用電力使用量が大幅に増加したことも原因の一つである。LED化の推進、設備更新時の省エネタイプ導入も継続して行っているが、総排出量基準のため生産変動に左右されやすい。

【推進体制】

＜環境対策推進体制＞は従来と変わりなく、環境管理委員長（窯炉技術統括部長）－工場事務局（安全環境防災部マネージャー）－環境グループリーダー（3工場、2事務所それぞれのマネージャー 計5名）となっている。各環境グループが各環境対策テーマを期首に掲げ、各テーマ別目標値（電力・エネルギー使用原単位低減、環境に配慮した技術開発テーマ、コンプライアンス遵守のための各種環境測定、各種設備点検などの確実な実行など）を設定し、それぞれの進捗状況について毎月15日までの集計の上、本社に報告している。また年1回のEMS審査ではそれぞれの活動内容を確認されるとともに年1回の社内の地球環境保全委員会において備前工場の活動内容について全社に周知いただいている。

【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
	<p>（平成30年度実施分）従来と同様の取組みを継続した。</p> <p>①乾燥炉、焼成炉などの操業パターンの最適化推進 ②生産動向に応じた諸設備稼働条件の最適化推進 ③製品歩留まり向上及びニアネット成形による加工ロスの削減 ④冷暖房使用時の適正温度管理推進 ⑤照明器具のLED化推進</p> <p>（今後実施予定分） 基本方針の変更はなく、継続していく。但し、今期はPCB含有照明器具の取り外しが進行するため、その際にLED化がハイピッチで進む見通し。</p>

【森林保全等吸収源対策への取組】

県内での取組	無	
その他	無	

【再生可能エネルギーの導入】

県内での取組	無	
その他	無	

【その他特記事項】

--